

各社ヒアリングを踏まえた タスクフォース提言（案）

経済産業省

商務情報政策局 情報経済課

ヒアリング結果（機器のネットワーク接続）

- 普及促進タスクフォース委員に事前ヒアリングを実施。
- ECHONET Lite対応機器で最も台数が多いエアコンについては、**通信機能が内蔵されるための課題**に特化し、エアコンメーカー様に回答いただいた。

Question	Answer (Summary)
<p>（エアコンメーカー） 機器のネットワーク接続（Connected機器化）に向けて、特にエアコンにおいて、ECHONET Lite接続用に専用アダプタを採用する理由を教えてください。また、内蔵型に切り替えていくための課題と考えている事項を記載してください。</p>	<ul style="list-style-type: none">・機器購入価格の上昇・日々進化するネットワーク通信仕様への対応（Wi-Fi,LTE/5G,LPWA,etc）・各国電波法、ECHONET Lite AIF等の認証取得・試験実施コスト・ファームウェアアップデートなど品質保証の考え方等のコンセンサス確立
<p>（その他企業・団体） 機器のネットワーク接続（Connected機器化）に向けて、御社が課題と考えている事項を記載してください。</p>	<ul style="list-style-type: none">・安定したネットワーク接続が保証できる通信方式の採用・ネットワーク接続設定（ネットワーク接続の施工・設定体制の構築）・他社機器との接続による責任分界・サポート体制の構築・採用する通信方式の決定・家電・エネルギー機器以外の住設機器等との連携

通信機能が内蔵されない一番の理由は、**ネットワーク接続機能を使われないお客様にとってコストアップ**となり、他社との価格競争において不利になるため。通信機能利用が一般的になれば内蔵化が進むという考え。

一方、Google, Apple, Amazon等が音声コントロール機能とクラウドサービスでスマートホーム市場に乗り込んできている昨今、日本発のサービスが登場し、**通信機能が一般的になるまで何もせずに待っている時間的な余裕はない。**
結局、市場ニーズを海外企業に取り込まれ、彼らの指定する仕様で機能実装をせざるを得ない状況に陥る危険性。

コスト以外の課題への対応

課題1：ネットワーク通信方式はどれに対応すれば良いか？

→通信方式を絞ることで市場を狭めてしまう危険性もあるため、本タスクフォースでは議論しないこととする。
一般普及率も高く、施工業者のスキルも上がっている状況もあることから、Wi-Fiの採用が現実的ではないかという意見もある。

課題2：各国における認証取得・試験にどう対応するか？

→ECHONET Lite AIF認証においては、通信機能に関わる部分に変更無ければ認証試験は不要。
海外での認証取得においては、回路設計は共通だが通信モジュールは内蔵せず、専用アダプタで対応する等の対応が可能か？

課題3：他社機器と接続する際の責任分界点・品質保証の考え方をどうするか？

→相互接続の際にどの分野においても生じる課題であり、ECHONET Lite AIFを改善していくことで解決できるか？
家電の遠隔制御において、ユーザーがエネルギーマネジメントと同等の品質を求めることは想定しづらい。

課題4：住設機器等との連携をどうするか？

→住設機器との連携は、家電の遠隔制御に付加価値を与える。
(例：外気温が一定温度を下回ると、エアコンを止めて窓を開ける、etc)
家電以外の機器においては、ECHONET Lite機器プロパティの拡充を図りつつ、ECHONET Lite汎用ミドルウェアアダプタ等によって、まずはネットワークに接続出来る環境を作ることが重要。

タスクフォース提言（案）

- 機器のネットワーク接続（Connected機器化）に向けた提言

1. エアコン等の家電においては、2018年度リリースする機器の通信機能内蔵化を懇願する。
2. 住設機器等においては、ECHONET Lite機器プロパティの拡充を図りつつ、汎用ミドルウェアアダプタ等によってネットワーク接続できる環境を整備する。